

令和5年度 調布市立北ノ台小学校 学校経営計画（校長 野口 直也）

学校の教育目標		
◎思いやりのある子ども ○よく考える子ども ○明るく元気な子ども		
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像		
目指す学校像 【子どもたち一人一人を大切に作る学校】 (1) 児童にとって 「よろこびのある毎日が送れる学校」 ・友達と関わることでできるよろこび ・学んで分かるよろこび ・心を解放して体を動かすよろこび ・自分の存在が認められるよろこび ・自分の成長が実感できるよろこび ・自分の将来に希望がもてるよろこび (2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられるみんなの学校」 ・開かれた学校（教育活動の積極的な発信） ・安心できる学校（チームで迅速, 誠実な対応） ・私たちの学校（協働, 連携） （学校 HP, 学級だより, 来校機会確保） （共通理解を図るためにコミュニケーションを密に） （地域学校協働本部 学校を核とした地域づくり） (3) 教職員にとって 「自己実現できる職場」 ・風通しのよい明るい職場 ・やりたいことができる職場 ・成長できる職場 （何でも相談, コミュニケーションを密に） （話し合いを通してボトムアップ, 当事者意識をもつ） （学び, 成長する機会の確保 職に誇りと責任を）		
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○児童は素直で真面目であるが, 全体的におとなしく控えめで自己肯定感が低い児童が多い。児童が自分のよさに気付き, 自分のよさを生かすことができるよう環境を整え, 児童が自ら考え, 主体的に活動する学校にしていくことが課題である。 ○個別の支援を必要とする児童が一定数いる。また, 不登校及び不登校傾向のある児童が多い。校内委員会, 不登校対策委員会の定期的な開催や SC, 関係機関と連携した組織的な対応を進めることが課題である。 ○学習指導要領や新たな教育課題への対応がまだ十分とは言えない。校内研究や OJT を通して, 教員の指導力を向上させることが課題である。	
中期的な経営目標		
① ・教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実 ・命の教育の推進, 特別支援教育の充実 ・いじめ・偏見・差別を生み出さない人権教育の推進 ② ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③ ・自己指導能力の育成と挨拶を核とした基本的な生活習慣の定着 ・安全及び心身の健康の保持増進に関する指導の充実 ・運動量を確保した体育授業の実践 ④ ・保護者や地域学校協働本部を活用した教育活動の充実 ⑤ ・一人一台タブレット端末の効果的な活用, プログラミング教育の推進 人・組 ・授業力の向上 ・校務分掌の活性化 ・服務規律の徹底 ・ライフ・ワークバランスの推進		
調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策） ①主体的に考え, 議論する道徳授業の実践をするとともに, いじめについて考える授業を全学級で各学期 1 回, 年間で 3 回行う。 ②不登校児童の解消や新たな不登校を生まないために心の居場所づくりに努める。(児童の声にしっかり耳を傾ける。迅速で誠実な保護者対応をする。) ③学級活動やたてわり班活動等の特別活動を通して, 児童に豊かなコミュニケーション力を身に付けさせる。 (2) 成果目標（数値目標） ①児童アンケート「いじめをしないで仲良く」95 点以上, 保護者アンケート「子供たちが安心して生活」85 点以上, 職員評価「道徳授業」70 点以上「いじめ授業」75 点以上 ②児童アンケート「学校が楽しい」90 点以上, 「先生に相談できる」90 点以上, 保護者アンケート「相談に誠実に応じている」85 点以上, 職員評価「居場所づくりに努めた」80 点以上 ③児童アンケート「きまりを守って生活」85 点以上, 職員評価「コミュニケーション力」「ユニバーサルデザイン」80 点以上	(1) 取組目標（具体的方策） ①週ごとの指導計画を作成, 提出し, 計画的に指導を行うとともに, 毎時間の授業においてねらい明示し, 振り返りを行う。 ②「主体的・対話的で深い学び」となるよう、積極的に対話を取り入れ, 授業の工夫改善を行う。 ③年間 10 回の校内研究で, 児童に学び合うよさを感じさせるためのICTの活用方法や指導方法を身に付ける。 (2) 成果目標（数値目標） ①児童アンケート「授業の内容が分かる」85 点以上, 保護者アンケート「楽しく分かりやすい授業」85 点以上, 職員評価「計画的な指導」85 点以上, 「ねらい・振り返り」75 点以上 ②児童アンケート「すすんで学習している」80 点以上, 「あきらめないで頑張る」85 点以上, 職員評価「対話を取り入れた授業」80 点以上, 「授業の工夫」75 点以上 ③児童アンケート「タブレット端末等を使うことで授業がわかりやすくなった」80 点以上, 職員評価「ICT を活用することで授業力が向上した」80 点以上	(1) 取組目標（具体的方策） ①「自己指導能力」を身に付けさせるために, 児童に自己選択, 自己決定させる場を設ける。「みんなのきまり」は全教職員で共通理解を図り, 挨拶や正しい言葉遣い等の習慣を身に付けさせる。 ②食育を充実させるとともに, スポーツフェスティバル, 長なわ跳び・単なわ跳び週間等を行うことで, 児童の健康や運動への興味関心を高め, 楽しさや喜びを味わえるようにする。 ③ねらいを明確にし, 運動量を確保した体育授業を行うとともに, 全員外遊びを実施することで運動の日常化を図る。 (2) 成果目標（数値目標） ①児童アンケート「すすんで挨拶」85 点以上, 保護者アンケート「すすんで挨拶, 学校のきまり」80 点以上, 職員評価「自己指導能力」「みんなのきまり, 挨拶, 言葉遣い」80 点以上 ②保護者アンケート「体力の向上や健康を保つための指導」90 点以上, 職員評価「食育の充実」80 点以上, 体力テスト T スコア 50 以上 ③児童アンケート「すすんで運動」90 点以上, 「職員評価「ねらいを明確にした体育授業, 全員外遊びの実施」80 点以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④ 保護者・地域との連携	⑤ ICT 機器を活用した授業改善	
(1) 取組目標（具体的方策） ① HP を年間 150 回以上更新する。学校・学級便りを定期的に発行する。 ② 地域学校協働本部を生かして地域の教育力を活用する。 (2) 成果目標（数値目標） ① 職員評価「HP 更新, 学校・学級便り発行」70 点以上 ① 保護者アンケート「地域と協力した教育活動」90 点以上	(1) 取組目標（具体的方策） ① ICT の活用場面を増やすことで, 日常的な授業力の向上を目指す。 ② 「個別最適な学び」, 「協働的な学び」を意識して児童用タブレットを活用する。 (2) 成果目標（数値目標） ① 職員評価「ICT の活用による, 授業力の向上」80 点以上 ② 職員評価「一人一台タブレット端末の積極的な活用」80 点以上	
人材育成・組織運営		
○授業力の向上 ・計画的に OJT（北翔塾）枠を確保することで, 切磋琢磨し合う環境をつくる。 ・様々な講師を招聘し, 教職員の授業力や指導力を向上させる。 ○校務分掌等の活性化 ・校務分掌組織を見直し, 組織の運営を合理化する。 ・ボトムアップを実感することで, 教職員のモチベーションと当事者意識を向上させる。 ○服務規律の徹底 ・定期的な研修と服務ニュースレターを活用した校長講話により, 教育公務員としての自覚と人権意識を高める。 ○ワーク・ライフバランスの推進 ・校務支援システムを最大限活用し業務を効率化させることで, 週当たりの在校時間を 60 時間以内にする。		

